

(文部科学省「平成 29 年度 日本/ユネスコ パートナーシップ事業」)

英語教育専修 4 回生 谷垣 徹

- 1. 日 時 2017年12月16日(土)14:00~18:00
- **2. 会 場** 学校法人玉川学園 玉川大学 University Concert Hall (UCH) 2016 106 教室 他 (〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1)
- 3. 参加者 英語教育専修 4回生 谷垣徹

英語教育専修 1回生 下原舞

家庭科教育専修 1回生 東尾彩夏

4. 概要

(1) 開催趣旨

「地球はわれらが故郷なり」を建学の理念に掲げる玉川大学において、ユネスコの二大価値教育プログラムである ESD と地球市民教育 (GCED) を学校現場でどう統合し、展開してゆけるかを検討するユネスコスクール研修会を実施いたします。児童生徒の心の中に、日本人としての誇りや自覚とあわせて地球市民としての自覚を高めることは、人類社会が直面する諸問題に対する当事者意識の涵養を重視する ESD 教育実践の質をいっそう高め、異文化との共生およびそのための対話のスキル向上を通じて ESD により広い視野をもたらす契機になると期待されます。

ユネスコスクールをはじめとする学校現場の教師は ESD の文脈においてどのように地球市 民教育の意義や課題を受けとめていったらいいでしょうか。教材開発やカリキュラム開発とい うシステム的側面に加え、ここでは教員一人ひとりの授業づくりの姿勢に地球市民性育成への まなざしを持った ESD 実践をどう反映させ展開していくか、という教師教育の課題に焦点化 した議論を展開します。同時に、小中高大をつなぐ異学校種間連携の可能性についても相互討 論する場としたいと思います。

(「ユネスコスクール玉川研修会」開催要項より)

(2) 主催・共催・後援

(主催) 玉川大学教育学部

(共催) 玉川大学ユネスコクラブ

(後援) ASPUnivNet (ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)、

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター、

公益財団法人 日本ユネスコ協会連盟、ESD 活動支援センター

(3) 参加団体

本研修会は、翌日に行われる「第4回ユネスコクラブ全国サミット」と合同開催であるため、 以下の全国7大学のユネスコクラブが参加した。

- ・玉川大学ユネスコクラブ
- ・奈良教育大学ユネスコクラブ
- 広島大学ユネスコクラブ
- ・慶応義塾大学ユネスコクラブ
- ・国際基督教大学ユネスコクラブ
- ・安田女子大学ユネスコクラブ
- ・京都外国語大学ユネスコクラブ

(4) 研修会の内容

本研修会の内容を以下に記す。

14:00	開会式		
14:30	基調講演		
	吉田敦彦氏(大阪府立大学 副学長、ASPUnivNet 運営委員)		
	「ユネスコスクールにおける地球市民教育とサステイナブルな文化の形成」		
15:30	パネルディスカッション		
	「ユネスコの価値教育における異学校種間連携をどう強めるか?」		
	パネラー 吉田敦彦氏 (大阪府立大学 副学長)		
	建元喜寿氏 (筑波大学附属坂戸高等学校 教諭)		
	松倉紗野香氏 (上尾市立東中学校		
	グローバルシティズンシップ科 研究主任)		
	百田明弘氏 (町田市立小山田小学校 教務主幹)		
	司会 小林亮氏 (玉川大学 教育学部 教授)		
16:30	大学生およびフロアーとのワークショップ		
	「グローバルシティズンシップと私たちの生活」		
	ファシリテーター 松倉紗野香氏		
17:30	閉会式		
18:30	懇親会(玉川大学 KEYAKI 食堂 2階)		

5. 各プログラムの詳細

(1) 基調講演「ユネスコスクールにおける地球市民教育とサステイナブルな文化の形成」

基調講演では、大阪府立大学副学長の吉田俊彦先生より、ユネスコの理念やユネスコスクール(ASPnet)の歴史的歩み、DESD(ESDの10年)を経て展開されてきたESDやGCED(地球市民教育)について講演された。ESDと今後のユネスコスクールの展開を考えるには、平和・人権・文化といったユネスコの精神の原点を踏まえることが大切であると述べられた。ユネスコ精神の源流や、ユネスコスクールにおける取組がどのような背景で生まれ、ど



吉田俊彦先生による基調講演の様子

のような理念のもと展開されてきたのかを、原点に戻って改めて再確認する、とても良い機会 となった。

(2) パネルディスカッション「ユネスコの価値教育における異学校種間連携をどう強めるか?」

パネルディスカッションでは、異学校種間連携をテーマに、小学校・中学校・高等学校それ ぞれから ESD を実践されている先生方が登壇され、活発な意見交換が行われた。

高等学校としては、SGH (スーパー・グローバル・ハイスクール) に指定されている茨城大

学附属坂戸高等学校の立元喜寿先生から、 地域の小中学校への農業指導やインドネシアの小学校での出前授業など、校種や国境を超えた連携を大切にした取り組みを紹介された。中学校からは、研究開発学校としてGCED(地球市民教育)に取り組まれている、上尾市立東中学校の松倉紗野香先生からの発表があった。今年度は「18歳選挙権実施に向けた社会参画意識の向上」

「持続可能な社会の担い手を育成」「多様 な他者と協働できる力の習得」の三つを柱



パネルディスカッションの様子

に掲げ、SDGs を教育課程に組み込んだ教育実践をされている。小学校からは、町田市立小山田小学校の百田明弘先生が発表され、川の源流に位置するという環境を生かした教育を実践されている。

それぞれの校種での ESD 実践についての発表がされ、異学校種が連携することで ESD 実践をより活性化していくことや、それぞれの学校種において発達段階に応じて求められる役割などが再確認された。持続可能な社会づくりの担い手としての当事者意識や地球市民性の育成には、異学校種間の連携や継続した取り組みが必要不可欠であると強く感じた。

(3) 大学生およびフロアーとのワークショップ「グローバルシティズンシップと私たちの生活」

パネルディスカッションに引き続いて、上尾市立東中学校の松倉先生によるワークショップが行われた。グループで「持続不可能性」の要因となることがらを、自分の立場や社会の観点から考え書き出していき、それらが SDGs の度の目標に関連しているかを議論した。SDGs の特徴として、一つの課題が複数の目標と相互に関連しているということが挙げられ、社会問題の解決には一つの目標だけではなく、複数の課題が入り混じって成り立っているということを気付かされるワークショップであった。SDGs や GCED を身近な問題としてと絶えることのできるワークショップとなった。



ワークショップでのグループワーク様子



発表者の先生方と参加学生の集合写真

第4回ユネスコクラブ全国サミット 参加報告書

英語教育専修4回生 谷垣徹

- 1. 日 時 2017年12月17日(日)14:00~18:00
- **2. 会 場** 学校法人玉川学園 玉川大学 大学教育 2014 521 教室 他 (〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1)
- **3. 参加者** 英語教育専修 4 回生 谷垣徹

英語教育専修 1回生 下原舞

家庭科教育専修 1回生 東尾彩夏

4. 概要

(1) 開催趣旨

ユネスコクラブ全国サミットは、2013 年から開催されており、全国にある大学ユネスコクラブが集ってユネスコについての一つのテーマについて議論する会です。今年のテーマは「ユネスコクラブと地域のユネスコスクールとの連携」です。大学ユネスコクラブと地域のユネスコスクールとの新しい関係性を作ることを目的に、国連が提示する SDGs をもとに小学生でも楽しめる新たな「ワークショップ」を作成します。このワークショップは実際にユネスコスクールと交流する際などに使用できることを目標とします。また、前日に行われる「ユネスコスクール研修会」に参加することで、小学校から大学までの連携について学ぶことで、より大学ユネスコクラブと地域との連携についての理解を深めることが出来ます。私たちと一緒にユネスコについて学びませんか?

(「第4回ユネスコクラブ全国サミット」開催要項より)

(2) 主催・参加団体

(主催) 玉川大学ユネスコクラブ

(参加団体)

- ・玉川大学ユネスコクラブ
- ・広島大学ユネスコクラブ
- ・国際基督教大学ユネスコクラブ
- ・京都外国語大学ユネスコクラブ
- ・奈良教育大学ユネスコクラブ
 - ・ 慶応義塾大学ユネスコクラブ
- ・安田女子大学ユネスコクラブ

(3) 研修会の内容

本研修会の内容を以下に記す。

9:00	開会式		
	アイスブレーキング (玉川大学ユネスコクラブ)		
9:40	各大学ユネスコクラブの活動紹介		
10:30	グループワークに関する全体説明(奈良教育大学ユネス	コクラブ代表	長 谷垣徹)
10:45	<第1部>グループワーク		
	「地域のユネスコスクールとの連携に向けた SDGs ワークショップ作り」		
	【分科会1】SDG2 「飢餓をゼロに」 広島	大学	山口裕平
	【分科会 2】SDG4 「質の高い教育をみんなに」 玉川	大学	小泉遥子
	【分科会3】SDG10「人や国の不平等をなくそう」 慶應	義塾大学	鄭いえりん
	【分科会4】SDG11「住み続けられるまちづくりを」奈良	教育大学	谷垣徹
	【分科会 5】SDG13「気候変動に具体的な対策を」 国際	基督教大学	江川裕士

12:30	各大学代表者会議
	議題「第5回ユネスコクラブ全国サミット開催に向けて」
13:30	<第2部>各グループからのワークショップ発表
14:30	<第3部>今後の活動に向けたダイアログ
	「今回のサミットで得た経験・成果物を、自分たちの活動にどう生かしたいか」
14:10	閉会式

5. 各プログラムの詳細

(1) 各大学ユネスコクラブの活動紹介

今回のユネスコクラブ全国サミットでは 全国7大学から学生が集まっているため、 それぞれの大学から活動紹介の発表を行っ た。奈良教育大学ユネスコクラブからは下 原と東尾が、活動理念や年間の具体的な活 動内容について発表した。他大学の活動は 国際交流活動や国内外へのスタディーツア ーなどを行っているところが多く、一方本 学の活動は他大学と比べて特徴的で、子ど もと関わる活動をとして"実践的に"ESD の行動化を追究するというものであるた



奈良教育大学の活動紹介の様子

め、他大学の学生からも関心が寄せられた。短時間の発表ではあったが、発信するために自身 の活動を改めて振り返ることができたと共に、他大学からのフィードバックを得ることもでき、 有意義な発表の場であった。

(2) グループワーク (第1部)

ユネスコクラブ全国サミットのメインの活動として、SDGs (持続可能な開発目標)をもとにしたワークショップ作りに取り組んだ。昨年度から継続して参加している5つの大学から一人ずつファシリテーターを選出し、参加者を5つの分科会に分け、それぞれ特定のSDGsの目標をテーマにしてワークショップ作りを行った。グループワークの全体の進行は、奈良教育大学ユネスコクラブから谷垣が担当した。グループワークの中では、まずそれぞれの目標



ワークショップ作りの様子(第3分科会)

で示されている具体的なターゲットや、現在の達成状況などの資料を使って理解したうえで、 小学生から高校生までの児童生徒を対象としたワークショップの作成に取り組んだ。参加者は 所属大学や学部など、多種多様な背景を持つメンバーが集まっているため、それぞれの専門分 野や活動分野を生かして、多角的な視野から議論することができた。

(3) 各大学代表者会議

各大学の代表者が集まり、今後のユネスコクラブ全国サミットの開催に向けての議論を行った。ユネスコクラブ全国サミットは今回で4回目を迎え、これまでは玉川大学ユネスコクラブが主体となって企画・運営を行ってきた。しかし、このユネスコクラブ全国サミットをさらに発展させていくためには、多様な主体が協働して創り上げる体制を構築していく必要がある。その先駆けとして、今回は奈良教育大学ユネスコクラブが、サミットの中心となる SDGs ワークショップの企画・運営、メインファシリテーターを務めた。来年度以降のユネスコクラブ全国サミット開催に際しては、開催校を順に回していき、多様性に富んだサミットの運営をしていきたい。そのため、来年度(第5回)の開催にあたっては、奈良教育大学での企画・運営、開催とし、企画段階から他大学との連携協働体制を確立して行うことが決定した。

(4) 各グループからのワークショップ発表 (第2部)

各グループで作成したワークショップ 案を参加者全体で共有した。発表後には会 場からの質疑応答を行い、そこで得た助言 をもとに、サミット終了後に各グループで 改良を行った。改良されたワークショップ は、各大学で地域のユネスコスクール等と 連携して実際に活用できるようにフォー マットにまとめ、共有した。実際に地域の ユネスコスクールで実践している大学も あり、サミットの成果が確実に波及してい っている。今後はこのような連携の体制を



グループ発表の様子(第1分科会)

より強固にし、それぞれの地域に還元できるようにしていきたい。

(5) 今後の活動に向けたダイアログ (第3部)

1日目のユネスコスクール研修会、2日目のユネスコクラブ全国サミット全体を通して、どのようなことを感じ、学んだかを大学ごとに共有しあい、今後の活動に向けてのビジョンを話し合うダイアログの時間を設け、各大学からの発表を行った。こうして全国から学生が集まって交流し、意見交換をすることによって、自分たちの活動を改めて見つめ直し、新たな視点を持って今後の活動について考えることができた。次年度の全国サミット開催校として、ユネ



今後の活動に関する奈良教育大学の発表

スコクラブの全国ネットワークのつながりを大切にし、今後もより良い連携協働体制を維持していきたい。

6. 事前勉強会の実施

今回のユネスコクラブ全国サミットでは、SDGs (持続可能な開発目標)を扱ったワークショップの作成に取り組んだ。奈良教育大学ユネスコクラブでは SDGs に関する理解が不足していると考え、参加メンバーで事前に SDGs に関する勉強会を 4 回にわたって実施した。朝日新聞の連載記事「教えて! SDGs」全 12 回分を用いて、各回の担当者を決め、①新聞記事からわかったこと、②自分で調べたこと、③自分で考えたこと・わたしたちにできることの三つでまとめ、それらを共有し、学び合う勉強会を行った。事前勉強会で SDGs や関連する諸課題への理解を深めたことで、サミット本番の議論により深く貢献することができたと考える。参加者の報告書にも、事前勉強会での学びの重要性が大きく挙げられていた。今後もこのような企画の場では事前勉強会での学びの充実を意識すると同時に、日頃からの継続的な学びも大切にしたい。



事前勉強会のワークシート

7. 事後振り返り研修の実施

サミット本番で得たことを今後の活動に還元するために、奈良教育大学で事後の振り返り研修を実施した。振り返り研修では、主に以下の4点について話し合った。 (内容)

- ① ユネスコクラブ全国サミットに参加して学んだこと、 感じたこと
- ② 他団体の活動の良いところ、真似したいところ
- ③ 奈良教育大学ユネスコクラブの良いところ、足りない ところ、これから頑張りたいこと
- ④ 自分自身の良いところ、足りないところ、これから頑張りたいこと

こうして他団体との交流を通して振り返りを行うことで 様々な学びがあり、他団体の活動を知ることで自分たち強 みや課題を改めて確認することができた。今後に向けた活 動のビジョンも立てることができ、非常に有意義な機会と なった。



自分自身についての振り返り

8. 参加者の報告書

参加した学生の報告書を以下に掲載する。

ユネスコスクール玉川研修会及び第4回ユネスコクラブ全国サミットに参加して

英語教育専修1回生 下原 舞

平成 29 年 12 月 16 日、17 日の 2 日間を通して、玉川大学にて行われたユネスコスクール玉川研修会及び第 4 回ユネスコクラブ全国サミットに参加した。

この2日間で学んだことを以下の三つの観点から振り返りたい。一つ目はユネスコや ESD に関する理解の大切さ、二つ目は行動化の重要性、そして三つ目は他大学との交流の大切さである。

まず一つ目の、ユネスコや ESD に関する理解の大切さについてであるが、これは1日目に玉川大学

で開催されたユネスコスクール玉川研修会で身に染みて感じたことである。「ユネスコスクールにおける地球市民教育とサステイナブルな文化の形成」についての基調講演を聞いた際、自分のユネスコや ESD に関する知識が追い付かず、講演の内容が分からなくなることが少なからずあった。これまで奈良教育大学ユネスコクラブでは楽しく実践的な活動を行ってきたが、今回の研修会を通して、私は今まで「楽しさ」だけに目が行ってしまい、ユネスコや ESD に関する基礎知識が十分にない



KJ 法を用いたワークショップの様子(2日目)

まま過ごしてきたことに気が付いた。自分たちの楽しく実践的な活動に、どのような ESD 的要素が含まれているのかを理解した上で、一つひとつの活動に参加していきたいと感じた。

次に、二つ目の行動化の重要性についてである。これは2日目のSDGsのワークショップを通して感じたことである。私のグループでは、SDG10『人や国の不平等をなくそう』について KJ 法を用いて意見を出し合い、高校生を対象にしたワークショップ作りを体験した。高校生が考え得る「不平等をなくす方法」を想定したとき、「身近なところから不平等をなくす」という意見が多く出た。SDGsという世界が抱える問題を、当事者意識を持って自分のこととして考え、まずは自分の周りから変えてみるという行動の大切さを学ぶことができた。また、その行動を自分の中にしまっておくのではなく、何か成果物を作成したり、他の人に自分の行動を伝えたりして、「行動を可視化すること」が達成感に繋がり、周りの意識も高まると考えられる。

三つ目の他大学との交流の大切さについてであるが、これは2日間全体を通して強く感じたことである。他大学と活動紹介をし合うことで新しい発見や是非真似したいところを見つけることができたり、逆に他大学と比較することで自身の大学のユネスコクラブの良さに改めて気付いたりすることができる。私は今回の交流を通して、奈良教育大学ユネスコクラブの良さは「様々な角度から楽しく ESD を実践できるところ」であると感じ、他大学からは ESD 勉強会や幅広い国際交流等、興味深く是非奈良教育大学ユネスコクラブでも実践したい活動を知ることができた。このような発見は他大学との交流がない限り得られないものである。

最後に、このユネスコスクール玉川研修会及び第4回ユネスコクラブ全国サミットでは、多様な学びと発見を得ることができ、非常に充実した2日間となった。今後も他大学との交流の機会を大切にし、来年度以降も積極的にこれらの活動に関わっていきたい。

学びの多かった第4回ユネスコクラブ全国サミット

家庭科教育専修1回生 東尾 彩夏

2017年12月16日~17日の2日間、第4回ユネスコクラブ全国サミットが開催された。ユネスコクラブ全国サミットは、今回で4回目であり、今年は奈良、京都、広島、東京など、全国にある7つの大学のユネスコクラブが集まって交流した。1日目の「ユネスコスクール玉川研修会」では現職の先生方から ESD に関する講演をお聞きし、2日目の大学生によるグループワークでは、国連が提示する SDGsをもとに小学校から高校の児童、生徒でも楽しく学んでもらえるようなワークショップ作りを、グループに分かれて考えた。他大学と交流しながら活動することで、新しい発見や考え方を知る貴重な機会となった。

今回のユネスコクラブ全国サミットで感じたこと、学んだことについて2点述べたい。一つ目は、 事前学習の大切さについて、二つ目は、他大学のユネスコクラブと「交流」するからこそ気づける学びがあるということである。

一つ目の、事前学習の大切さについてだが、これは今回の全国サミットに向けて、数日前から行っていた事前学習会に関することだ。SDGs の 17 個の達成目標についての 12 回の新聞の特集記事を読み、各自で調べ、仲間同士でそのことについての情報共有を行った。その事前学習会を通して感じ



グループワークで考えたワークショップ案の発表

たことは、今までは自分の中でどこか遠いイメージだった SDGs が、一気に近くなったということだ。今の日本がほとんど SDGs の目標を達成できていないこと、目標達成に貢献している企業がどんな活動をしているのか、自分たちが今からできることは何なのかなど、SDGs の諸問題を具体的に自分たちの問題として意識し、これをもっと多くの人に知ってもらいたいと思うようになった。また、この事前学習会を行ってからユネスコクラブ全国サミットに参加したことで、より意欲的に研修会でのお話を聞くことができたし、他大学の学生との意見交換の際にも、しっかりと自分の意見を持って話し合うことができた。このことから、私にとって今回のユネスコクラブ全国サミットへの参加は、事前学習会の大切さを改めて知る機会にもなった。

二つ目の、他大学のユネスコクラブと「交流」するからこそ気づける学びがあるということについては、私が今回特に重要だと感じたことだ。他大学のユネスコクラブの活動紹介を聞いて、改めて、奈良教育大学ユネスコクラブの活動の特徴や良いところ、足りないところを考えるきっかけになった。国内外へのスタディーツアーの企画、活動のより良い情報発信の仕方など、奈良教育大学のユネスコクラブがまだ行なえていなかったことに気づくことができたのは、やはり他大学との交流があったからだと思う。また、他大学のユネスコクラブの方々が、普段どのように ESD について学んでいるのかを知ったり、自分の意見を堂々と人前で話す姿を見たりして、奈良教育大学で活動しているだけでは感じることのない刺激が与えられた。

今回初めて、ユネスコクラブ全国サミットに参加してみて、参加前に比べて SDGs に関する知識が向上したことはもちろん、それを初めて会った仲間と深め合うことで、普段の奈良教育大学のユネスコクラブの活動を客観的に見直す機会にもなった。今回の気づきを活かして、奈良教育大学ユネスコクラブをいっそう盛り上げていけるよう、今後も様々な活動に参加していきたいと思う。

第4回ユネスコクラブ全国サミットに参加して ~「参加者」から「参画者」へ~

英語教育専修4回生 谷垣 徹

2017年12月16日(土)から17日(日)にかけて、東京都の玉川大学において「ユネスコスクール 玉川研修会」及び「第4回ユネスコクラブ全国サミット」が開催され、本学ユネスコクラブ員3名が出 席した。私自身は2年連続の参加であったが、今年は「参画者」として、全国サミットの企画に携わる ことができた。

「参画者」として関わった今回、いろいろなことを学ぶことができたが、その中での特に印象に残っていることを以下の3点で報告したい。一つ目に事前学習の大切さについて、二つ目に大学間交流の広がりについて、三つ目に来年度に向けての展望についてである。

一つ目の事前学習の大切さについてであるが、当日を迎えるまでに出席メンバーで持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals;以下SDGs)についての勉強会を数回継続的に実施した。今回の全国サミットでは「参加者」であった昨年度とは異なり、「参画者」としてSDGsを基にしたワークショップの進行を、本学学生が担当した。ESDを活動理念に掲げる我々奈良教育大学ユネスコクラブにとって、SDGsに関する理解は今後の活動においても必要不可欠であると考え、新聞記事を用い



SDGs ワークショップの進行の様子

た事前学習を実施した。結果として SDGs に関する理解や現代社会が抱える諸課題に対する関心が高まり、当日のワークショップにおいても事前学習の成果が現れたと感じている。

二つ目の大学間交流の広がりについてであるが、会場校である玉川大学ユネスコクラブとは今年で6年連続大学間の学生交流を行っている。そして今年度は新たに、広島大学ユネスコクラブとの学生交流を実現することができた。さらに今回の全国サミットで、本学ユネスコクラブの活動に興味を持ってくださった他大学のユネスコクラブからも、来年度の学生交流の依頼を受けた。このような企画に参加することでネットワークが広がり、大学間の相互交流、活動の活性化を図ることに寄与していると感じた。

三つ目の来年度に向けた展望についてであるが、ユネスコクラブ全国サミットは4回連続で玉川大学において開催されてきた。この活動をより活発なものとし、全国各大学のユネスコクラブのさらなる発展に向けて、全国サミット開催校を毎年順番に回していくことが計画されている。その初年度として、来年度は奈良教育大学で開催することを検討している。同じ「ユネスコクラブ」という名前を掲げて活動していても、その活動の形態・分野は多種多様で、他大学から学生を誘致し本学で全国サミットを開催することは、本学学生にとって非常に有意義な学びに繋がるだろう。また他大学の学生にとっても、本学ユネスコクラブの活動のあり方は目新しいもので、多くの知見を提供できると考えている。今後の全国の大学ユネスコクラブ活動がより活発になることを願って、来年度の全国サミットの運営に取り組みたい。

SDGs ワークショップの進行を中心に、今回は全国サミットの運営に事前準備の段階から関わることができた。この全国サミットを無事終えることができたことに対して、開催校として事前準備から当日の運営まで多大な尽力をされた玉川大学ユネスコクラブの皆様に御礼を申し上げると共に、来年度の全国サミットに向けて、万全な受け入れ体制を確立して、準備を進めたいと思う。